



田植えシーズン到来ですね！

気象庁の予報では、5 月下旬までの平均気温は高くなる見込みです。

苗の焼けや伸びすぎ、病害の発生などにご注意ください。



1. 育苗期に発生する病害への対策

(1) 主な病気と原因・症状

育苗期間は、育苗箱周辺の温度や湿度の条件によって、さまざまな病気が発生します。

病気の種類	主な症状	主な発生原因
苗立枯病 (リゾプス菌)	床土の表面が白色のカビで覆われ、やがて灰白色になる。	出芽時の高温 (30℃以上)
苗立枯病 (ピシウム菌)	坪状に発生し、地際部が水浸状に褐変腐敗し、地上部は萎凋・枯死する。	緑化期の低温 (10℃以下)
苗立枯病 (フザリウム菌)	モミを中心に白色～淡赤色のカビが発生する。	緑化期の低温 (10℃以下)
ばか苗病	第一葉鞘、新葉が徒長する。	罹病種子の使用、高温多湿
ムレ苗	日中葉身が針状に巻き、次第に黄褐色に変わり、ひどくなると褐変枯死する。	急激な温度変化 (低温が 2～3 日続いた後に高温)、多湿
もみ枯細菌病	葉鞘の褐変 (図 1)、葉身基部の白化 (図 2) などの症状が坪状に発生し、枯死する。芯葉を引っ張るとするっと抜け基部に褐色帯がみられる。	高温 (30℃超) 多湿、汚染土壌、罹病種子の使用

参考：もみ枯細菌病とは

近年発生が増加している病気で、この病気に関する相談はつくば普及センターにも多く寄せられています。病気が急速に広がりやすく、発病後に有効な農薬はないため、甚大な被害を及ぼす可能性があり、注意が必要です。

予防には、浸種～育苗中の温度管理が特に重要です。浸種は 10～15℃、催芽および出芽は 28～30℃とし、育苗中はハウス内が 30℃以下になるように保ち、多かん水を控えるようにしましょう。薬剤による防除は、種子消毒や播種時に登録農薬を使用して予防します。



図 1 葉鞘の褐変 (苗腐敗症)



図 2 葉身基部の白化

※茨城県農林振興公社イネもみ枯細菌病対策チラシより写真を引用

(2) 主な病気の防除対策

病気は、発生を未然に防ぐことが最も重要です。

適切な温度、水管理で発病しにくい環境を整えるとともに、各病気に予防効果のある農薬を使用しましょう。緑化期を過ぎると散布可能な薬剤が限られてくることから、対策は早めに行いましょう。

発病してしまった場合、農薬散布以外には、本田に移植することで病気が改善する場合があります。被害程度が大きい場合、播き直しやJAなどから苗の購入を検討しましょう。

2. 水稻の初期管理のポイント ～除草剤の使い方と分げつ促進～

(1) 除草剤を使用するときの注意点

水稻の初中期除草剤の効果を十分に発現させるには、水管理を適正に行うことが重要です。除草剤散布後、1週間程度は掛け流しや落水をしないようにしましょう。

田面が露出すると、除草剤の効果が低下し、雑草が繁茂してしまいます(図3)。田面が露出しそうなときは、あふれ出ないように注意して静かに入水し、水深を確保しましょう。

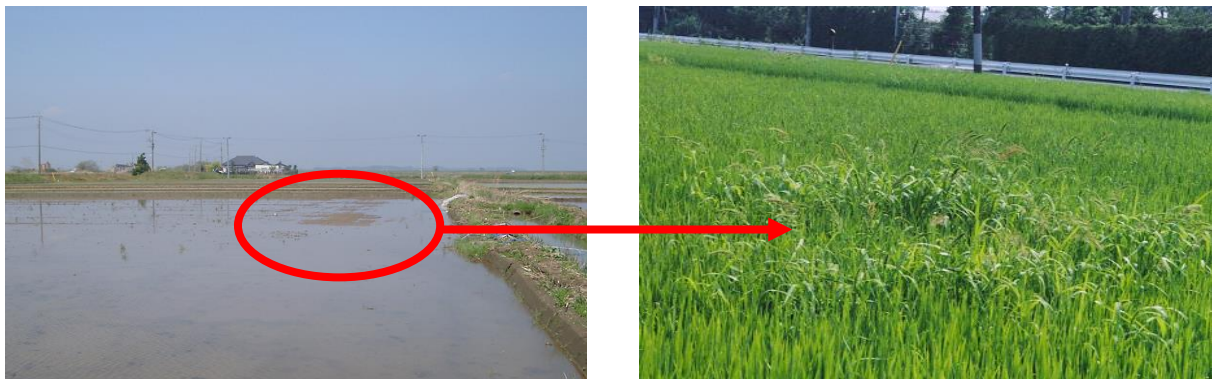


図3 初中期除草剤施用後、田面が露出 → 田面が露出した部分で雑草が繁茂

(2) 分げつ開始後は、浅水管理に

(除草剤の効果を十分に発現させた後は、)
初期生育の分げつを促進するために、浅水管理(2～3cm程度)にしましょう(図4)。

特に、天候が不順で、分げつが不良の場合は、浅水管理で地温を高め、茎数を確保しましょう。



図4 分げつ促進のための浅水管理

(3) 置き苗は早めに廃棄しましょう

置き苗はいもち病の発生源になります。田植え後は、すみやかに水田外へ除去しましょう。

3. 田植え前後に有効な雑草イネ対策について

雑草イネとは、赤米など由来不明のイネです。穂から粃がこぼれやすく（図5）、粃の色が褐色～黒色、粃の先端や芒が赤い、出穂期が栽培イネと異なるなどの特徴があります。

雑草イネも「イネ」であるため、水稻用除草剤があまり効かず、放置すると雑草のように増え、栽培イネの収量低下や収穫物への混入被害（図6）をもたらします。

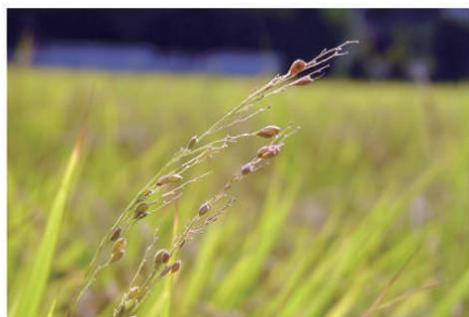


図5 出穂して脱粒した雑草イネ



図6 赤米が収穫物に混入した様子

※農研機構作成の雑草イネ・漏生イネ防除技術マニュアルより写真を引用

前年に圃場での発生が認められた方は、以下の対策を行うようにしてください。

遅植え：雑草イネの出芽は30～40日間にわたってだらだらと続き、茨城県の場合、4月中旬～5月下旬までに土壌中の雑草イネ種子の80%程度が出芽します。出芽がある程度そろった後、浅水で丁寧に複数回代かきを行いましょう。

有効除草剤：雑草イネに効果のある除草剤を、7～10日間隔を目安にして、合計2～3回散布します。2. (1)にも記載があるように、除草剤の処理層を保持することが重要です（図7）。

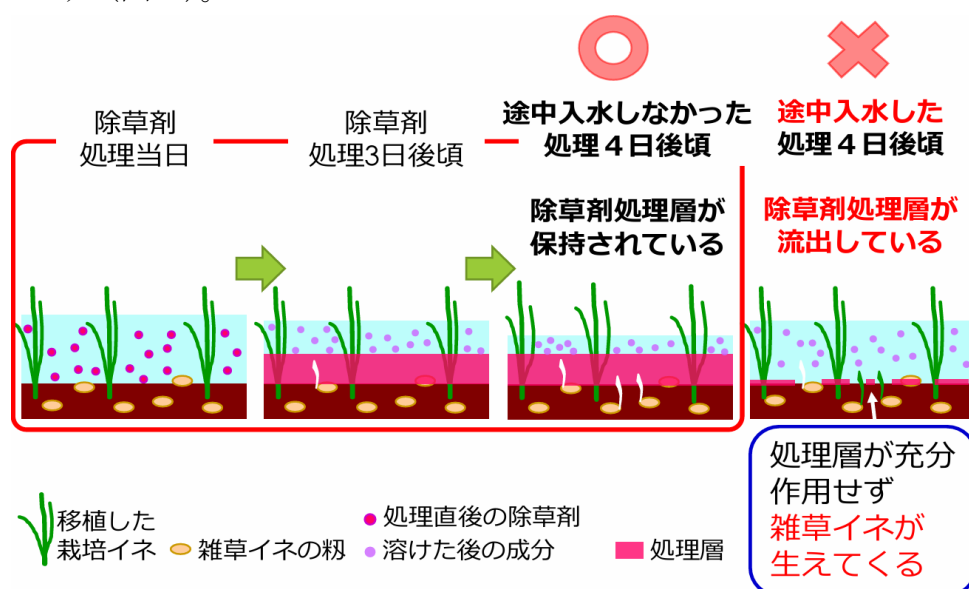


図7 除草剤処理の注意点

雑草イネに有効な除草剤は、公益財団法人日本植物調節剤研究協会のHPを参考にしてください。

<https://joso-catalog.japr.or.jp/weed-list/paddy/1>



4. 茨城県の試験研究主要成果（R6 年度）紹介

（１）樹脂率低減被覆肥料を用いた水稻「にじのきらめき」向け全量基肥肥料の開発

農業研究所は、「にじのきらめき」用の試作肥料で、目標収量 660kg/10a を安定的に確保できることを明らかにしました。この試作肥料は、幼穂形成期から出穂期までの窒素溶出量が慣行の基肥一発肥料に比べ高く、樹脂率を低減した被覆肥料を用いていることが特徴で、令和 7 年 4 月から「にじかちゃん一発 J」（27-10-10）という名称で販売開始しています（図 8）。使用しているコーティング原料が被覆の崩壊性に優れ、被膜殻が水田に浮上しにくいため、マイクロプラスチックが河川や海に流出するリスクを低く抑えることができます。

プラスチック被覆殻の流出を防ぐ方法は、
農林水産省の HP で事例が公表されています。
浅水代かきや捕集ネットの設置も有効です。

https://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s_hiryo/attach/pdf/hihuku_hiryo_taisaku-30.pdf



図 8 にじかちゃん一発 J

（２）イネカメムシによる斑点米を抑制する薬剤散布時期

イネカメムシ（図 9）による斑点米を抑制するために効果的な散布時期は出穂期から 9～15 日後であることが明らかになりました。一方、カメムシ類による不稔被害の軽減を目的とした防除は、出穂期～穂揃期の散布が必要です。



※茨城県の HP より写真を引用

図 9 イネカメムシ成虫

（３）種子塗抹処理による水稻乾田直播栽培におけるイネ縞葉枯病の防除

水稻乾田直播栽培において、トリフルメゾピリム水和剤（商品名：ルミスパンス FS）を塗抹処理した種子は、ヒメトビウンカの生息密度を抑制し、イネ縞葉枯病発病への防除効果が高くなりました。

- 1 2025 年 4 月 9 日現在の登録内容です。
- 2 資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する方は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。
- 3 また、農薬の新しい安全性評価の導入等にもとない、直ちに使用方法を変更するよう注意喚起される場合があります。その場合は、ラベルの使用方法ではなく、変更後の使用方法に従って使用してください。最新の情報は、農薬の購入先や茨城県病害虫防除所のホームページ等で確認してください。

【農作業安全】 田植え作業での事故には十分注意しましょう！

- ①長靴は、靴底に十分きざみがあり、滑りにくいものを使用しましょう。
- ②田植機の点検やつまりの除去のときには、
必ず、エンジン・クラッチを停止しましょう！
動いている植え付け爪には絶対に触らないようにしましょう。
- ③田植機の移動は運搬車を利用し、積み込み、積み下ろしは
あゆみ板を利用しましょう。
- ④田植機を動かすときは、周囲に人がいないことを確認すると
ともに、後退時には、後方を十分に確認しましょう。
- ⑤水田に入るときは前進で、あぜに対して直角に進みましょう。
- ⑥水田から出るときは、水田の出入口に対して直角に、
後進でゆっくり出ましょう。
補助作業者を機体前部にしがみつかせての、ほ場からの退出は
厳禁です！
- ⑦苗の補給時は、田植機を停止させ、足元には十分注意すると
ともに苗の受け渡し時は、足元の安定を確認しましょう！
- ⑧子どもなど、作業員以外の人を乗せて運転しないこと！



※JA 富山中央会
農作業安全イラスト集より引用 5